

# プロの目利きにかなう 品質と“対応力”が 協業関係を さらに発展させていく

九州で太陽光発電事業を展開するデンケンは、  
参入当初からインリー・グリーンエナジー製品を採用。  
両社の信頼関係はどんな経緯で築かれ、  
今後は何をを目指すのか？



製造現場で  
とことん話し合い、  
日本のお客さまの品質要求  
を満たす製品を安定的  
コンスタントに供給  
できるようになりました

の真摯なサポート体制が厚い信頼を獲得してきた。  
**自社の検査装置で  
品質判定し、  
インリーの製品を選択**

温泉資源に恵まれた大分県は  
地熱発電の供給量で国内随一だ  
が、国東半島以南から中部の東  
側地域は日照時間も比較的長く、  
太陽光発電所もあちらこちらに  
設置されている。

かの地でも高い評価を得てい  
るのが、世界的なシエ  
アを擁するインリー・グ  
リーンエナジー（以下、  
インリー）製の太陽電池モ  
ジュールだ。それ  
て、その日本人である  
インリー・グリーン  
エナジージャパン（以  
下、インリージャパン）

の真摯なサポート体制が厚い信  
頼を獲得してきた。  
「当社は27カ所に総発電出力が  
33メガワットに達するメガソーラーを  
建設してきましたが、それらに  
採用している太陽電池モジュー  
ルの9割はインリー製です」  
こう語るのは、大分県で電気  
電子応用機器の事業を展開する、  
デンケンのソーラー事業部の山  
野健治常務取締役だ。もともと  
同社は半導体検査装置などを開  
発・製造・販売してきたが、2  
012年11月からメガソーラーに  
進出。現在では、メガソーラー  
のEPC（設計・調達・建設  
の一括請負）とIPP（電力  
の卸売り）が主力事業の一角と  
なっている。では、インリー製  
の太陽電池モジュールを選んだ

## Win-Winが成立 パートナーに

太陽電池モジュールを熟知し  
ているクライアントへの納入だ  
けに、一切の妥協も許されない  
ことは容易に想像がつくだろう。  
インリージャパン技術部の中路  
基成部長は次のように述べた。  
「デンケンの細かなご要望をき  
ちんと反映してもらうために、  
山野常務取締役と共に中国の工  
場まで足を運んだこともありま  
す。ご要望については決して進  
削品質にならぬようご配慮いた  
だき、市場に不良品を流出させ  
ない品質管理につながるような  
当社にとってもメリットのある  
Win-Winの関係が成り立つ単  
なる買い手・売手にとどまら  
ぬパートナーとしてのアドバ  
イスを頂きました。」



▶エネルギーの“地産地消”の取り組みを  
成功させたい、と中路氏と山野氏

▲(上)太陽電池モジュールテストは、  
結晶系、薄膜系、化合物系と、全てに対応。  
(下)マイクロクラック検査装置は、太陽  
電池セル、モジュール生産工程で課題とな  
っているマイクロクラックを可視化し、歩  
留まり向上と長期信頼性を確保する



解してもらった結果、  
日本のお客さまに満足  
いただける製品を安定  
的に、また、より高品  
質の製品を供給でき  
ることとなりました。デ  
ンケンをはじめとする  
日本のお客さまの声は  
当社にとっても大きな  
収穫だったと思います」  
不具合などが発生した場合の  
管理に至るまで、クライアント  
の要望に真摯に応えようとする  
サポート体制こそ、インリージ  
ャパンの大きな強みだ。一言で  
表現すれば、対応力にたけて  
いるわけである。  
なお、インリーの太陽電池モ  
ジュールは、25年間の出力保証  
がされているが、今までデンケ

ンに納入された約14万4000  
枚のパネルのうち、製造品質上  
の理由で交換に至ったものは10  
枚にも満たない。また、先の熊  
本地震で同県内の太陽光発電所  
も被災し、数枚のパネルが大き  
くゆがんだものがあつたが、デ  
ンケンの工場に持ち帰って検査  
したところ、全く異常が認めら  
れなかったそうだ。

## エネルギーの地産地消 大志を抱き次のステージへ

インリージャパンでは今後、  
エネルギーの、地産地消の観  
点から大規模なメガソーラー発  
電所よりも低圧や住宅用を中心  
とした小規模な発電所のビジネ  
スに注力していく方針だ。キー  
となる住宅用ビジネスに関して  
全国の工務店ネットワークと協  
働し、単なる太陽光発電システ  
ムの販売ではなくZEH（ネッ  
ト・ゼロ・エネルギー・ハウス）  
対応住宅の普及

という大義を掲  
げて活動してい  
る。また、デン  
ケンでも、地産  
地消という新  
たな取り組みに  
力を入れている。  
山野氏自ら代表  
取締役社長とし

検査装置で  
シビアに測った結果、  
インリーが最もコストに  
優れていました。  
購入した約14万4000枚の  
モジュールのうち、交換  
したのは10枚未満です



▶検査ノウハウを基に、メガソーラーの企画、設計、建設、事業管理をワンストップで行う事業を九州を中心に展開するデンケン。本社にあるインリー製モジュールを設置した太陽光発電所



て、地元大分に密着した電力会  
社「新電力おおいだ」を設立し、  
電力小売りに進出したのだ。  
同社が所有するメガソーラーや  
県内の他の再生可能エネルギー  
発電事業者から電力を調達し、  
公共施設や商業施設などに高圧  
の電力の供給を始めている。今  
年10月には、一般家庭向けに低  
圧電力の供給もスタートする予  
定だ。

代に生きる日本人としての義務  
である。両社はE-ITという団  
体で出合い、良きパートナーと  
なった。そのパートナーシップ  
をさらに昇華させるべく「エネ  
ルギーの地産地消を実現する」  
という次のステージへと大志を  
抱き共に歩を進める。